

わが

ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる 健康都市

豊かな自然に恵まれ、
多様な文化と歴史が
織りなすまち

新生「上田市」は、平成18年に
1市2町1村の合併により誕生し
ました。北は「ラグビー合宿の聖
地」である菅平高原、南は雄大な
美ヶ原高原という二つの自然公
園に抱かれた、上田城の城下町を
中心とする長野県東部の都市です。



市の観光拠点である「上田城跡公園」



ワイン用ブドウ畑が広がる「陣場(じんば)台地」

かつて「蚕都」とうたわれたほ

ど盛んだった蚕糸業で培われた技
術を生かし、現在では、精密電気
機器などの製造業が地域経済をけ
ん引しています。また、少雨多照
で昼夜の寒暖差が大きい気候を生
かして、高原野菜やリンゴをはじ
めとする果樹など、バラエティー
豊かな農産物が生産されており、
近年では、ワイン用ブドウの生産
地としても注目され、近隣8市町
村で広域ワイン特区「千曲川ワイ
ンバレー東地区」の認定を受け、
ワイン産業の振興にも力を入れて
います。

また、戦国武将「真田氏」発祥
の地として広く知られ、北陸新幹
線や上信越自動車道により、首都
圏や北陸方面からのアクセスも良
好で、多くの観光客でにぎわい、
映画などのロケも頻繁に行われる

など、「住んでよし、訪れてよし」
のまちです。

日本遺産認定とシビック プライドの醸成

本市では、「太陽」や「大地」に
縁のある寺社を含む文化財群が、
夏至の朝日が照らす直線上(レ
イライン)に配置されているこ
とに着目し、令和2年6月、「レ
イラインがつなぐ『太陽と大地
の聖地』〜龍と生きるまち 信州
上田・塩田平〜」と題したストー
リーにより、日本遺産の認定を
受けました。

市と関係団体などで設立した
「上田市日本遺産推進協議会」
を中心に、観光振興、地域活性
化の一層の推進を図ります。
また、文化財をはじめ、地域の
歴史文化、自然風土、産業など



日本遺産の構成文化財の一つ「生島足島(いくしまたるしま)神社大鳥居」
©岡田光司

について市民が触れる機会を設け、
郷土に対する誇りや愛着といった
「シビックプライド」を醸成するた
め、令和元年度から「信州上田学」
事業をスタートしました。ライフ
ステージに応じた学びの場を提供
するとともに、平成29年度に公立
大学法人化した長野大学での講座
や、学生を中心に上田の未来を語
り合う「上田未来会議」など、住み
続けたいと思える地域づくりを目
指し、取り組みを進めています。



上田電鉄別所線千曲川橋梁（左は被災直後で、右は復旧工事中）

「東日本台風」災害からの復旧・復興（上田電鉄別所線全線開通に向けて）

令和元年10月、東日本を中心に広い地域を襲った「令和元年東日本台風」は、本市にも甚大な被害をもたらしました。災害復旧に当たり、姉妹都市・友好都市をはじめ、全国から多大なご支援を賜りましたことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

被害は、道路、河川、農林業用施設など広範に及び、中でも市の中央部を流れる千曲川に架かる上田電鉄別所線橋梁の一部崩落は、地域住民の重要な交通手段を奪うこととなり、状況は深刻でした。

復旧に向けて、国・県・鉄道事業者と協議を重ね、国から特別な支援を受けるため、橋梁などを市が保有することを決断し、工事を進めてまいりましたが、いよいよ本年3月28日に、1年5ヵ月ぶりに全線開通する運びとなりました。

被災直後から、多くの市民、鉄道ファン、被災地を心配してくだる全国の皆さまに支えられ、応援メッセージや5万筆を超える署名、多額のご寄付・義援金など、温かいご支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。

この災害を教訓とし、ビルド・バック・ベター^①の理念の下、復旧・復興を着実に進め、防災体制のさらなる強化を図ってまいります。

「未来につながる上田」を目指して

令和3年度から、5カ年の第二次上田市総合計画「後期まちづくり計画」が新たにスタートします。本計画では、人口減少・少子高齢化などの課題に効果的に対応するため「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一体化を図った他、市を取り巻く社会情勢を踏まえ、新たに「子育て支援」と「最先端技術活用」を重点プロジェクトに位置付けるとともに、市の施策に「SDGs」のグローバルな目標を関連付け、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進することとしています。

特に最先端技術につきまして

は、現在、個別計画である「上田市スマートシティ化推進計画」の策定を進めており、ICTやデジタルツールを活用し、市民サービスの向上や行政事務の効率化、産業や公共交通など地域課題の解決を目指すとともに、「新しい生活様式」の下での暮らし方、働き方の変化も踏まえ、施策を構築しています。

新型コロナウイルスは私たちの暮らしを一変させ、社会経済に計り知れない影響を及ぼしています。先を見通すことが困難な時代ではありますが、市民の命と暮らしを守るという覚悟を持ち、全国の自治体の皆さまと連携して共にこの難局を乗り越え、ひと笑顔あふれる郷土の実現に向け、これからも全力を尽くしてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 552.04km²
- ◆ 人口 15万5595人
- ◆ 世帯数 6万8216世帯

〔将来都市像〕ひと笑顔あふれ輝く未来につながる 健康都市

〔まちの特徴〕二つの自然公園を有し、城下町と蚕都の面影を残す、四季折々の風物に彩られた文化と歴史が織りなすまち

〔市町村合併〕平成18年3月6日、上田市、丸子町、真田町、武石村による新設合併



上田市長 土屋陽一



〔特産品〕上田^{（おと）}純、農民美術、松茸、つげば料理、そば、おやぎ、美味だれ、焼き鳥、うえだみどり大根、ワイン、地酒

〔観光〕上田城跡公園、塩田平、信濃国分寺、別所温泉、鹿教湯温泉、菅平高原、美ヶ原高原、北国街道・柳町、信州国際音楽村

〔イベント〕上田城千本桜まつり・紅葉まつり、上田真田まつり、岳の織、信州爆水RUN in 依田川、戸沢のねじと馬引き、ともしびの里駅伝大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住宅都市からの転換
働きながら暮らせるまちを目指して東京から1時間圏内の
自然豊かな住宅都市

逗子市は、神奈川県南東部に
ある三浦半島の入り口に位置し、
明治から昭和初期にかけては保養
地として多くの著名人に愛され、
東京・横浜のベッドタウンとして
発展した、豊かな自然に囲まれた
小さな住宅都市です。

三方を山に囲まれ、もう一方は



インスタ映えで人気のマリナー周辺

相模湾に面し、遠浅で波静かな逗
子海岸が広がります。海水浴場と
しては100年以上の長い歴史が
ありますが、現在では音楽、砂浜
での飲酒、入れ墨・タトゥーの露
出などを禁止した「日本一厳しい」
条例・規則の運用の下、家族連れ
で楽しめるファミリービーチとし
て親しまれています。年間を通じ
てヨットやウインドサーフィン、
SUPなどのマリンスポーツを楽
しめる場でも
あります。

また、市内
には高級ホテ
ルの機能もあ
るマリナーも
あります。ヤ
シの並木が続
く、このアメ
リカ西海岸風
のリゾート施設は、インスタ映え
するスポットとして若者の人気を
集めています。

逗子でビジネスを

本市の歳入の多くは個人市民税
が占めています。少子高齢化の
影響で年々歳入が減る一方、社会
保障費の増加、公共施設の老朽化
対策、災害対策など取り組むべき
課題も多く、近年では財政面で厳
しい状況にありました。財政再建
を図り、持続可能なまちづくりを
推進するためには、法人関係税収
を増やすことが必要と考え、企
業誘致と起業促進をはじめとし
た、「住むまち」から「働きながら
暮らせるまち」への転換を目指し
た取り組みを進めています。

その取り組みの一つとして、令
和元年には「platform ZUSHI BIZ」

を立ち上げました。多様な事業者
や大学などの研究機関が参加し、
意見交換やネットワークを構築す
ることにより、市内において新た
なビジネスの実現に向けた取り組
みを推進し、ビジネスの活性化に
資することを目的としたプラット
フォームです。現在、大手通信会
社やエネルギー、医療・福祉関係
など約50企業、四大学など約90の
法人および個人の方々が参加され
ています。

ワークেশションで
関係法人づくり

ZUSHI BIZでは、活動の必要性
に応じて、会員が自主的にワーキ
ンググループを設置することがで
きます。現在、健康医療分野と地
域エネルギー分野で二つのワーキ
ンググループが立ち上がり、市も
連携しながら新たなビジネスの実
現を模索しています。



家族連れでにぎわう逗子海岸海水浴場

ビジネスの実現も思うように進めることはできませんでした。そのような中でも、民間事業者と連携してワーケーションの実証実験を開始しました。市内でのワーケーションが進めば、実際に本市に足を運んでもらう人が増えることから、東京まで1時間のアクセスの良さや豊かな自然環境をはじめとした本市の魅力や、都内の企業などに広く知ってもらえるきっかけをつくることができます。その結果、関係人口だけでなく、関係法人を創出することも期待できる

ことから、移住促進や企業誘致に資するものとして、また、ウィズコロナ、アフターコロナの新しい生活様式の取り組みの一つとして推進しています。

女性が活躍できるまちに

本市には25〜39歳のファミリー層の転入が多く、特に、東京都特別区のうち、世田谷区や品川区など、神奈川県に近接しているエリアからの転入超過傾向が見られます。さらに、コロナ禍にあつてリモートワークが推進され、毎日通勤する必要がなくなるなど、企業に勤める従業員の働き方に変化が生じたことで、より住環境に関心が高まった結果、本市への移住希望者がさらに増え、転入超過傾向が強まっています。

自然豊かな本市には、結婚や出産をきっかけに転入する人が多い一方、住宅都市という性質上、一般的なオフィス系の仕事、職場が乏しく、子育て世代が働きたいと希望する仕事や職場が市内に少ないことから、働く意欲のある子育て世代の女性への就業機会の提供が課題となっています。また、子育て世代の希望する柔軟な

働き方では保育所の入所基準を満たしていないことも多く、子どもを預ける先がないために仕事に就けないという悪循環も見られます。そこで、保育的機能を持った職場を誘致創設し、子育てしながらも逗子で活躍できる環境づくりを進め、「働けるまち」としての魅力も高めていきます。さらに、こうした取り組みが企業誘致や起業促進にもつながるような好循環を生み出していきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 17・28 km²
- ◆ 人口 5万9598人
- ◆ 世帯数 2万7736世帯

〔将来都市像〕青い海とみどり豊かな平和都市（都市宣言）
〔まちの特徴〕東京から1時間でアクセスできる、海あり山ありの自然豊かな住宅都市



逗子市長
桐ヶ谷 覚

- 〔特産品〕ワカメ、シラス
- 〔観光〕逗子海岸、マリンスポーツ
- 〔イベント〕逗子海岸花火大会、逗子アートフェスティバル



官民連携でワーケーションの実証実験

※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「地域とつくる多様な暮らしを 選べる生活都市」の実現に向けて

尾張戦国武将たちの 青春の舞台

江南市は愛知県北西部、清流木曾川の南岸に位置し、面積30・20㎢の市域を有する都市です。地形は扇状地であることから全般に平坦な土地は、温暖な気候・風土と相まって、暮らしに最適な自然環境となっています。

名古屋から20㎢圏にあり、公共交通機関のアクセスは約20分と利便性が高いことから、ベッドタウンとしての都市化が進み、愛知県尾張北西部の主要都市となっています。また、木曾川を挟み、岐阜県側の地域との交通結節点にもなっています。

戦国時代には、織田信長や豊臣秀吉らが若き日を過ごした青春の

舞台としても知られ、市内に多くの歴史を残す生駒家は信長や秀吉とのつながりが深く、3代家宗の娘である久庵桂昌大禅定尼（戒名。前野家に伝わる古文書「武功夜話」では「吉乃」という）が信長との間に、嫡男信忠、信雄、徳姫をもうけている他、秀吉から届いた書状や礼状などが生駒家に残るなど、この時代を代表する武将たちとは深い縁で結ばれていました。

暮らしが花ひらく 生活都市。江南市

市内には、後醍醐天皇の勅願寺として元徳元年（1329年）に創建された「曼陀羅寺」がそびえ、国の重要文化財に指定されている正堂や書院をはじめ、多数の文化財を所蔵しており、市のシンボルの一つとして知られています。また、

隣接する曼陀羅寺公園には、市の花である「フジ」が早咲きから遅咲きまで12種類約60本、紫・白・紅と色鮮やかに咲き誇ります。毎年4月下旬から5月上旬にかけては「こうなん藤まつり」が開催され、多くの観光客でにぎわいます。

フジの他にも、市内ではサクラ・ボタン・アジサイ・ハナシユウブといった花々が楽しめる他、国営木



曼陀羅寺正堂を背景に、観光客でにぎわう「こうなん藤まつり」



四季折々の花々や緑に囲まれた公園「フラワーパーク江南」

曾三川公園の一つである「フラワーパーク江南」をはじめ、市内のあちらこちらで四季折々の彩りを感じていただくことができます。

一年を通じて花と緑豊かな環境がありながら、公共交通機関で約20分の位置に大きな都市がある。そんな「暮らしの中に便利が詰まったまち」が江南市です。

田舎の良さと生活の利便性を併せ持った「ゆとりのある暮らしが見つかる場所」として、「暮らしが花ひらく生活都市。江南市」をキャッチコピーに、シティブロモーションを推進しています。



令和5年度の供用開始を目指す「布袋駅東複合公共施設」(イメージ図)

生活・産業・文化の 魅力があふれ、 選ばれ続けるまち

本市は、平成20年に「江南市戦
略計画(第5次江南市総合計画)」
を策定し、「地域経営」と「行政経
営」の二つの視点を取り入れ、市民
協働による総合的かつ計画的なま
ちづくりを推進してまいりました。
その間、人口減少・少子高齢化
の進展、地震・風水害といった災
害対応へのニーズの高まり、I C
T技術の進展、市民参加・官民連
携の広がりなど、社会経済情勢も
大きく変化してきました。

こうした時代背景を
受け、平成30年には、
初めて人口減少社会を
前提とした総合計画と
して「第6次江南市総
合計画」を策定いたし
ました。
この計画は、これま
で本市が培ってきた市
民協働の仕組みを基礎
として、より効率的・
効果的な行政経営を実
現し、将来像に掲げて
おります「地域とつく

る多様な暮らしを選べる生活都
市」の実現に向けて、本市の魅力
や市民の皆さまの満足度を高める
ため、さまざまな施策を行ってお
ります。

新たなにぎわいと交流の 創出を目指して

本市では、平成28年度に「布袋
駅東複合公共施設基本計画」を策
定しました。安心・安全な生活に
つながる公共サービスの提供およ
びにぎわい・交流の創出、財政負
担の軽減を実現するために、官民
連携事業により、布袋駅東地区に
新たなにぎわいの拠点となる複合
公共施設を整備することといたし
ました。

また、施設には以前から検討を
進めてきた、市民からの期待も高
い図書館の整備についても組み込
むこととし、民間施設や他の公共
施設と連携した効率的・効果的な
施設整備や子育て支援機能など、
一層の充実を図ることとしてい
ます。

「南玄関口にふさわしいにぎわ
いと、安心して住み続けられるま
ちの交流施設」を基本コンセプト
に、布袋駅前ににぎわいや交流を

創出し、市民の利便性を向上する
ため、令和5年4月の供用開始に
向け、公共機能と民間機能が複合
した「官民複合施設」の整備を進
めてまいります。
新型コロナウイルス感染症は、
依然として収束の見込みは立って
いませんが、感染予防対策や支援
策を講じながら、アフターコロナ
の時代を見据え、事業を進めてま
います。

プロフィール

- ◆ 面積 30・20 km²
- ◆ 人口 10万239人
- ◆ 世帯数 4万1779世帯

〔将来都市像〕地域とつくる多様な暮
らしを選べる生活都市

〔まちの特徴〕木曾川の恵みを受けて
発展した扇状地であり、温暖な気候・
風土で暮らしやすく、交通便利性が高
く、住みやすいまち

〔特産品〕ネギ(江南越津ねぎ)、ナバ
ナ、地酒、インテリア織物、ハクサイ、



江南市長
澤田和延



ダイコン、ポインセチア、コマツナ、
キャベツ
〔観光〕曼陀羅寺、音楽寺、北野天神社、
フラワーパーク江南、二子山古墳
〔イベント〕こうなん藤まつり、あじ
さい祭り、江南市民サマーフェスタ、
江南市民花火大会、こうなん産業フェ
スタ、北野天神社筆まつり



SNSやテレビで話題になった踏切のサングラスをかける「布袋の大仏」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人が輝き自然と生きる共感・共創のまち 「宿毛」くまち、ひと、未来のために

魚のゆりかご、文教のまち 宿毛市

宿毛市は、四国の西南端に位置し、全国に先駆けて桜前線が上陸する温暖な気候と、海・山・川とあった豊かな自然に恵まれたまちです。



明治22年に建築された「宿毛まちなえき 林邸」

「魚のゆりかご」と言われるほど魚種が豊富な宿毛湾の魚は絶品であり、ブリ、タイを中心とした養殖業が盛んです。農林業では、約84%の森林率を誇る豊かな森林があり、オクラやイチゴなどの農産物が生産され、中でも文旦や小夏、直七といったか

んきつ類は、本市の特産品として、全国へ発信されています。

さらに、歴史や文化においても、明治以降の日本に多大な影響を与えてきた偉人を多く輩出したまちでもあります。

揺るぎない「七つの理念」

本市は、昭和29年町村合併促進法施行に伴い、六つの町村が合併し、人口3万2000人余りを擁する市として誕生しました。以来、人口減少が続き、私が市長に就任した平成27年12月には、人口が2万1620人となり、市制施行時からの減少率は32.4%となりました。人口減少に歯止めを掛けることは喫緊の課題であり、ま

ちの魅力を生かすことをスローガンに、「産業振興」「観

光振興」「防災対策」「人口減少対策」「子育て支援」「高齢化社会対策」「文化と芸術とスポーツ振興」の「七つの理念」に基づき、実効性のある政策を全身全霊で進めてまいります。

特に、東日本大震災を受けて、平成24年に高知県が新たに公表した南海トラフ地震による本市の被害想定（最大規模の地震発生を想定）によると、市街地は震度6弱の揺れと7m程度の津波が発生し、さらに地盤が2・4m沈降するとされています。

そうした中、本市では大規模災害時において大きな力を発揮する「自助」や「共助」の意識醸成や活動への助成に取り組み、「公助」としての対策についても、津波から「命を守る」対策、助かった「命をつなぐ」対策、復旧・復興期にお

ける「生活を立ち上げる」対策など、短期だけでなく中長期的な視点の下、積極的に取り組みを進めてまいります。

また、津波浸水想定区域にある各種公共施設については、可能なものから高台移転を検討・実施しています。その中で、老朽化が著しい市役所庁舎については、復旧・復興の司令塔となる「災害に強い庁舎」となるよう、令和4年完成に向け、新庁舎建設に取り組みしております。

今後は、都市計画マスタープランや地域防災計画の全面改訂、国土強靱化地域計画の策定を計画しており、災害に強いまちづくりを目指してまいります。

未来を担う子どもたちの成長を全面サポート

本市では「子育て世代包括支援センター」や「地域子育て支援センター」「子育て支援室」の配置に加え、保育園や学校など各種機関の連携を強化することで、妊娠期

から子育て期にわたって切れ目のない支援を行っており、医療費についても16歳未満の子どもたちを対象に無料化するなど、子育て支援の充実を図っています。

今後、「宿毛市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、地域の特性や複雑、多様化するニーズに沿って、子どもを産み育てやすい環境づくり、子ども・子育て支援事業の提供を行ってまいります。

新たな時代に対応したまちづくり

魅力あふれるまちづくりを実践する上で、地域資源を活用することは、本格的な地方創生の時代を生き抜くために必要不可欠です。そこで、本市の大きな魅力である海・山・川といった自然・体験型観光の取り組みを推進していきます。釣りやダイビングなどのマリンスポーツをはじめ、令和2年は日本初となる、高さ72mのダムの壁面を利用

したクライミング施設を国と連携して整備しました。地上約63mの場所からスタートできるスリル満点のコースを体感いただけます。「新型コロナウイルス」の感染拡大を受けて、本市におきましても、「新しい生活様式」の実践を市民の皆さまと取り組んでいるところであり、コロナ禍での健康維持は非常に重要な課題となっております。



島の宝100景にも選定されている「沖の島」

競技合宿に来ていただくなど、本市のスポーツ活性化に向けサイクルイベントによるスポーツ振興、教育文化向上に努めております。自転車は「密」を避けて利用できるツールです。今後は、子どもから高齢者までが自転車に触れる機会を増や

本市では、平成31年3月に、「宿毛市自転車を活用したまちづくり計画」を策定しており、東京2020オリンピックピック・パラリンピック競技大会のホストタウンの相手国であるオランダから自転車

し、自転車やサイクルスポーツを市民にとって身近なものにしていくとともに、ルール・マナーの徹底や将来的な市民の生活の質の向上を図りながら、「コロナなんかには負けない」健康で笑顔があふれるまちづくりを目指していきます。引き続き、まち、人、未来のために、そして「人が輝き自然と生きる共感・共創のまち」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 286・20 km²
- ◆ 人口 1万9896人
- ◆ 世帯数 1万64世帯

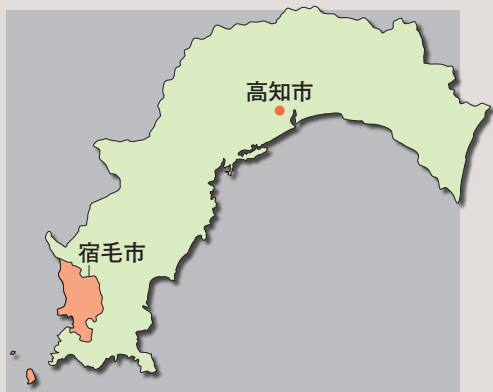
〔将来都市像〕人が輝き自然と生きる共感・共創のまち、宿毛。

〔まちの特徴〕宿毛湾の豊富な水産資源と、緑豊かな山々に囲まれた、歴史や文化に恵まれたまち

〔特産品〕カツオ、ブリ、タイ、キビナゴ、サンゴ、文旦、小夏、温州みかん、直七、イチゴ、オクラ



宿毛市長
中平富宏



〔観光〕沖の島・鶴来島、出井甌穴、四国霊場三十九番札所 延光寺、宿毛まちなぎ林邸、宿毛歴史館

〔イベント〕市民祭宿毛まつり、野菜祭り（ヤーサイ）、宿毛マラソン、すくもサイクルフェスティバル



自転車を活用したまちづくりを推進

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。